

Salone Satellite PERMANENT COLLECTION

È iniziata quasi per caso. "Fin dalla prima edizione, al momento di smontare gli stand, capitava che i designer" - racconta Maria Griffin - "mi lasciassero i loro prototipi, in segno di omaggio o di buon auspicio". E molti sono davvero entrati in produzione e lanciati sul mercato. Per altri, l'incontro fortunato con l'imprenditore giusto, è arrivato anni dopo, e per questo i pezzi sono stati donati già in forma di prodotto finito, dagli stessi designer o dalle aziende.

Poi nel 2007, per il 10° anniversario, e nel 2017, per il 20°, due mostre sono state occasione di "oltranzismo": e, anche in quei casi, tanti i prodotti rimasti al SaloneSatellite dopo le esposizioni. Nel 2017 è stato creato anche un nucleo speciale, "20° Anniversario", composto da prodotti inediti creati per l'evento dall'unione di designer e aziende. Nel 2018 tutto questo patrimonio di idee andato a buon fine ha trovato un luogo feudo dove essere esposto: l'Artwood Academy a Lentate sul Seveso, l'Istituto Tecnico Superiore, scaturito dalla Fondazione Rosario Messina e da FederlegnoArredo, con l'obiettivo di formare i nuovi artigiani che potranno tradurre in forme compiute le idee su carta delle future generazioni di designer: il luogo adatto per dare la possibilità agli studenti di studiare da vicino i prodotti immaginati per il XXI secolo.

Così tutto è stato catalogato e racchiuso nel nome "SaloneSatellite Collezione Permanente". Da allora il numero dei pezzi raccolti continua a crescere e la Collezione viene apprezzata e ammirata. Nel 2024, dopo la grande mostra "Unverso Satellite 25 anni di SaloneSatellite" in Triennale Milano, una selezione di prodotti è stata esposta all'Arts Pavilion di West Kowloon e ora, nel 2025, presto volerà in Giappone. La selezione, questa volta, guarderà esclusivamente amici e oggetti disegnati da designer di tutto il mondo, prodotti da aziende italiane. Perché sarà uscita dal Podigione Italia, in una mostra dedicata dal 7 al 20 settembre, nell'ambito di Expo 2025 Osaka.

It started almost by chance. "Right from the very first edition, when we were taking down the stands, some of the designers left me their prototypes. As a tribute or, quite simply, good luck," said Maria Griffin. Many of them actually went into production and were launched on the market. In other cases, it took several years for the fortunate meeting with an entrepreneur to materialise, which is why the pieces were donated in the form of finished products, by the designers themselves or by the companies.

Then, marking the 10th anniversary in 2007, and the 20th in 2017, two exhibitions were an opportunity for a "pennino". Then too, many products remained at SaloneSatellite after the exhibitions. In 2017, the special 20th Anniversary core group was formed, composed of new products created for the event by collaborating designers and companies. This treasure trove of successful ideas finally found its physical home and space at the Artwood Academy in Lentate sul Seveso. The Higher Technical Institute, supported by the Rosario Messina Foundation and FederlegnoArredo, was set up with the aim of training new craftspeople capable of translating the ideas on paper of future generations of designers into finished forms. The ideal place to give students an opportunity to see the products conceived for the 21st century up close.

プレスリリース

サローネサテリテ・パーマネントコレク
ション 日本初上陸

2025.9.5

 Salone del Mobile.Milano

2025.9.5

EXPO 2025 大阪・関西万博のイタリア館特別ゲスト サローネサテリテ常設コレクション展、いよいよ9月7日(日)開幕

イタリア館では、サローネサテリテで生まれ、いまや世界のデザイン界をリードする若い才能が手がけたプロジェクトが展示されます。EXPO 2025大阪・関西万博イタリア政府代表 マリオ・ヴァッターニ氏と、フィリッポ・マナーラ在大阪イタリア総領事による主催者挨拶が行われ、特別ゲストとして、サローネサテリテ創設者兼キュレーターのマルヴァ・グリフィン氏が招かれます。

2025年9月7日(日)から9月20日(土)まで、サローネサテリテ・パーマネントコレクション 1998-2025 がEXPO 2025 大阪・関西万博に登場し、物語でありビジョンであり、歴史でありマニフェストでもある展示が、イタリア館を豊かに彩ります。

サローネサテリテでプロトタイプとして発表され、そこで企業によって選ばれ、製品化された47点のセレクションは、国際的なクリエイティビティとイタリアのノウハウの好循環的な対話の証しであり、26回を数えるミラノサローネの“クリエイティブ・ハブ”を常に特徴づけてきました。展示される作品ひとつひとつが、革新性、生産倫理、形式的言語、アクセシビリティといった共通の価値観の縮図なのです。

サローネサテリテ常設コレクション 1998-2025 のオープニングセレモニーは、イタリアンウィークの開幕に合わせ、9月7日(日)午前11時(現地時間)よりイタリア館オーデトリウムにて、**大阪・関西万博イタリア政府代表 マリオ・ヴァッターニ氏と、フィリッポ・マナーラ在大阪イタリア総領事**による挨拶で始まります。サローネサテリテ創設者兼キュレーターのマルヴァ・グリフィンと、建築家のリカルド・ベッロ・ディアスが展覧会を紹介し、展示のガイドツアーが行われます。午後2時から3時30分までは、過去に本イベントに参加した日本人デザイナー数名によるラウンド・テーブルを開催。司会は、**2025年大阪・関西万博イタリア館文化・科学・教育担当責任者のロッセッラ・メネガッツォ氏**が務めます。サローネサテリテの各回で重要な役割を果たしてきたデザイナーを招き、イタリアのものづくりと国際的なクリエイティビティとの関係について、特に日本に焦点を当てながら議論し、サローネサテリテが対話とイノベーションのプラットフォームとして果たす役割を再確認しながら、イタリアと日本の上に文化的・生産的な架け橋を築くデザインの力について考察します。

ミラノサローネ、マリア・ポッロ代表のコメント

「大阪は戦略的な舞台です。毎年、ミラノサローネが国や欧州の枠を超え、新たな来場者とビジョンを発掘するための国際的なロードショーの幕開けです。サローネサテリテのパーマネント・コレクションとともに、2025年の大阪・関西万博開催地である日本からスタートすることは、非常に意義深いことです。私たちは、世界のクリエイティビティとイタリアの製造業との出会いを語り継ぐだけでなく、品質、素材への敬意、フォルムと機能のバランスを共有する2つのデザイン文化間の素晴らしい対話でもあります。日本はまた、イタリアが長い時間をかけて強固な架け橋を築いてきた、類まれなクリエイティブな対話相手でもあります。このことは、20世紀を代表する建築家・デザイナーであり、日本の美意識の詩学を解釈することができるカルロ・スカルパや、イタリアをインスピレーションの源としてきた安藤忠雄や坂茂といった建築家たちが証明しています。今日、佐藤オオキ、田村奈穂、佐野隆英など、サローネサテリテの舞台を飾った才能あふれる日本人デザイナーを挙げればきりがなく、この関係を引き継ぎ、親密でありながら普遍的なデザイン言語でイタリア企業と対話を続けています。サローネサテリテの大阪へのオマージュは、クリエイター、企業、地域を、生きた、包

括的で生成的なネットワークに結びつけるデザインのマニフェストであり、文化間の架け橋を築き、交流とビジョンの機会を創出し、デザインの価値に最も敏感な国際市場において、コラボレーションの新たな軌道と対話の機会を開くものです。日本が重要なのは、イタリアと同様、デザインが日常生活に不可欠な要素となっている国であり、普遍的な価値があるからです。最後に、イタリア政府、EXPO 2025 大阪・関西万博 イタリア政府代表 マリオ・ヴァッターニ大使、そしてイタリア館の全チームに、この重要な国際ショーケースにミラノサローネ国際家具見本市 (Salone del Mobile.Milano) をホストする貴重な機会を与えてくださったことに心から感謝いたします。このコラボレーションは、私たちに榮譽を与え、プロジェクトの文化を通じて、両国間の対話とビジョンを促進するというイタリアンデザインの戦略的価値を確認するものです」

EXPO 2025 大阪・関西万博イタリア政府代表 マリオ・ヴァッターニ氏のコメント

「サローネサテリテ常設コレクション 1998-2025 展を 2025 年大阪・関西万博のイタリア館で開催することで、イタリアの卓越したものづくりと国際的かつ産業的な創造性の粋を、アジア全般、とりわけ、常に先見の明を持つ日本人の人々に紹介することができます。Nendo、田村奈穂、川本真人、氷室友里など、多くの日本人デザイナーが参加しています。サローネサテリテの常設コレクションは、現在 400 点を超えます」

SALONE DEL MOBILE.MILANO

若い才能に特化したサローネサテリテ (SaloneSatellite) は、ミラノサローネ (Salone del Mobile.Milano) が主催するイベントです。卓越した育成の場と促進剤、企業からデザイナー、パイヤーから建築家まで、この分野のすべてのプレーヤー間のビジネスと関係のためのダイナミックで特権的なエコシステムで、プロジェクトの役割と進化を観察し、考察するためのスペースです。業界関係者にとっては、実験、コンタミネーション、批判的思考のグローバルな実験室であり、365 日活動するグローバル・デザイン・コミュニティにとって、物理的にもデジタル的にも不可欠な場です。

SALONESATELLITE PERMANENT COLLECTION 1998-2025

サローネサテリテの創設者でありキュレーターでもあるマルヴァ・グリフィン・ウィルシャーのキュレーションによるこのイベントは、若い才能とイタリア企業との豊饒な提携への具体的なオマージュであり、EXPO 2025 大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」を完璧に解釈しています。

マルヴァ・グリフィン氏のコメント:

「大阪・関西万博のイタリア館で開催される『サローネサテリテ・パーマネント・コレクション 1998-2025 展』では、サローネサテリテが 1998 年の第 1 回開催以来推進してきた、**国際的なクリエイティビティとイタリアの産業**との常に実りある出会いを記念して、展示する製品をイタリア企業の製品に絞っています。この出会いによって、多くの若手デザイナーが成長するための肥沃な土壌を見つけ、イタリアの卓越したものづくりと向き合い、ビジョンを形にすることができました。このエキシビションは、すべてが始まったその最初の瞬間に敬意を表し、同時に、達成された成果を高めるものです。それは今日、才能の出現を物語るだけでなく、文化的で生産的なコラボレーションの模範を物語るものです」

また、サローネサテリテで頭角を現したデザイナーとイタリアン・ブランドとの関係を象徴するデザイン・カメオである「特別作品」3 点と、イタリア人デザイナーがそれぞれ海外企業の Raat (東明照明) とニューヨーク近代美術館 (MoMA=Museum of Modern Art) の目に留まった製品 2 点も展示され、いずれもコレクションに含まれています。

JAPANESE DESIGNERS ON SHOW

サローネサテリテで頭角を現した最も重要な日本人デザイナーの存在が、本展覧会の中核となっています。彼らのプロジェクトは、文化的アイデンティティとコンテンポラリーなヴィジョンを融合させた進化という、達成された道筋を物語っています。例えば、ネンド (nendo) によるデパドヴァ(DePadova)のための「Chab」は、本質的で洗練されたコーヒーテーブルであり、カッペリーニ (Cappellini) のための「Koeda」は、自然と機能の出会いを本質的なサインに変換した彫刻的なコートスタンドです。また、田村奈穂がコーヴォ(COVO) のためにデザインした「Seasons」は、四季の自然のサイクルを詩的な感性で解釈したテーブルサービス、川本真人によるアリアンテディツィオーニ (Aliantedizioni) のための「Giava」は、本質的で調和のとれたラインを持つフルーツスタンド、佐野隆英のマッシモ・ルナルド (Massimo Lunardo) のための「Kumo」は、イタリアの職人技と東洋的なイメージを融合させた吹きガラスのティーポット。そして、氷室友里が cc-tapis のためにデザインしたラグコレクション「CULTIVATE」は、カッティングのジュスチャーを物語に変える新しいテクニックを用いた織物と彫刻のラグ。Aatismo がジオルジエッティ(Giorgetti) のために制作した「Water」は、「水」というテーマを、生命力と形式的な原理として、光り輝く鍵で再解釈した吊り下げ式のランプ。このように若いビジョンから生まれたオブジェは、今や確かな作家の言語として成熟し、本展が推進する**日伊のデザインの架け橋の文化的・生産的価値**を裏付けています。

日本が新興デザインシーンにおいて重要な役割を担っていることを裏付けるように、これまで何人も日本の若手デザイナーが SaloneSatellite Award を受賞してきました。数多くの特別賞に加え、42 名の受賞者がいます：田村奈穂(2010 年)、ブイオン(2016 年)、氷室友里(2018 年)、クリクリ(2019 年)、坂下隼(2019 年)、ホノカ・コレクティブ(2023 年)、スーパーラット(2025 年)。Honoka と Super Rat のプロジェクトは、SaloneSatellite の特徴である研究、持続可能性、文化的開放性の精神に合致した革新的なデザインビジョンを提案する若手デザイナーの創造的な活力と能力を具体的に証明するものであり、展覧会内で展示されます。

サローネサテリテのレイアウトを常に手がけてきた建築家リカルド・ベッロ・ディアスとハリアドナ・ピネーテがデザインした展示は、MCA - マリオ・クチネッラ・アーキテクトゥが創意、製造、想像力の交差点として構想したイタリア館の「知の格納庫」の一部となっています。

SALONESATELLITE'S PERMANENT COLLECTION

サローネサテリテのパーマネントコレクションは、ブリアンツァの中心部、レンターテ・スル・セヴェンにあるアートウッドアカデミーを拠点としており、デザイナーと企業との出会いの成功の結果、現在 400 を超える製品を生み出しています。学校であり、アーカイブであり、イタリアの木製家具サプライチェーンのプロフェッショナルを養成するワークショップであり、アイデアをモノに変え、モノを文化に変えるための必要条件である、デザインに関する深く総合的な知識を促進します。2024 年の香港に続き、大阪での展覧会は、世界中の文化施設からの招待に応え、巡回を始めたコレクションの国際化のさらなる一歩となります。オブジェを通したナレーションは、デザイン・システムに価値を生み出し続け、関係性の知性を認識し、高めていき、デザインの未来は、才能と産業がより良い世界を想像し、構築するために出会うときに生まれます。

サローネ・サテリテで 26 年間、そうあり続けてきたように。

SaloneSatellite Permanent Collection 1998 - 2025 Exhibition

サロネサテリテ・パーマネントコレクション 1998 - 2025 展

2025年9月7日 - 20日 Expo 2025 大阪・関西万博 イタリア館

キュレーター

Marva Griffin Wilshire, 創設者兼キュレーター SaloneSatellite

Ricardo Bello Dias con Hariadna Pinate, 展示・グラフィックデザイン

Porzia Bergamasco, プロジェクトコーディネーター、コンサルタント

Chiara Ghilardi, 主催事務局

イタリア企業

Aliantedizioni, Billiani, Bosa, Caimi, cc-tapis, Cappellini, Capsula Mundi, Covo, Giorgetti, Davide Groppi, De Padova, en&is design, De Castelli, Elite, Foscarini, Flos, FontanaArte, Francolight, Lodes, Luceplan, Massimo Lunardon, Magis, MDF Italia, Martinelli Luce, Mogg, Moroso, OGTM Officine Meccaniche, Pedrali, Ritmonio, Riva1920, Rubelli, Seletti, Tacchini.

デザイナー

Aatismo, Adriano Design, Pierfrancesco Arnone, Felicia Arvid, AZ Design/Andrea Zanini, Enrico Azzimonti & Jordi Pigem, Alessandra Baldereschi, Big-Game, Cristina Celestino, Anna Citelli e Raoul Bretzel, Carlo Contin, Alessandro Corina e Paolo Stella, Christophe de la Fontaine & Stefan Diez, en&is/Isabella Lovero e Enrico Bosa, Francesco Faccin, Francesco Forcellini, Francisco Gomez Paz, Davide Groppi, Himuro Design Studio, Zsuzsanna Horvath, Hsiang Han Design, Patrick Jouin, Makoto Kawamoto, Lanzavecchia + Wai, Alessandro Loschiavo, Xavier Lust, Francesco Librizzi, Marcantonio Raimondi Malerba, Benedetta Mori Ubaldini, Satyendra Pakhalé, Mikael Pedersen, Daniel Ribakken, Takahide Sano, Oki Sato/Nendo, Studio Truly Truly, Studioventotto, Studio-if, Nao Tamura, Carlo Tamborini, David Trubridge, Vittorio Venezia/Martinelli Venezia, Voon Wong & Benson Saw, Sebastian Wrong, Zanellato Bortotto.